



1



2

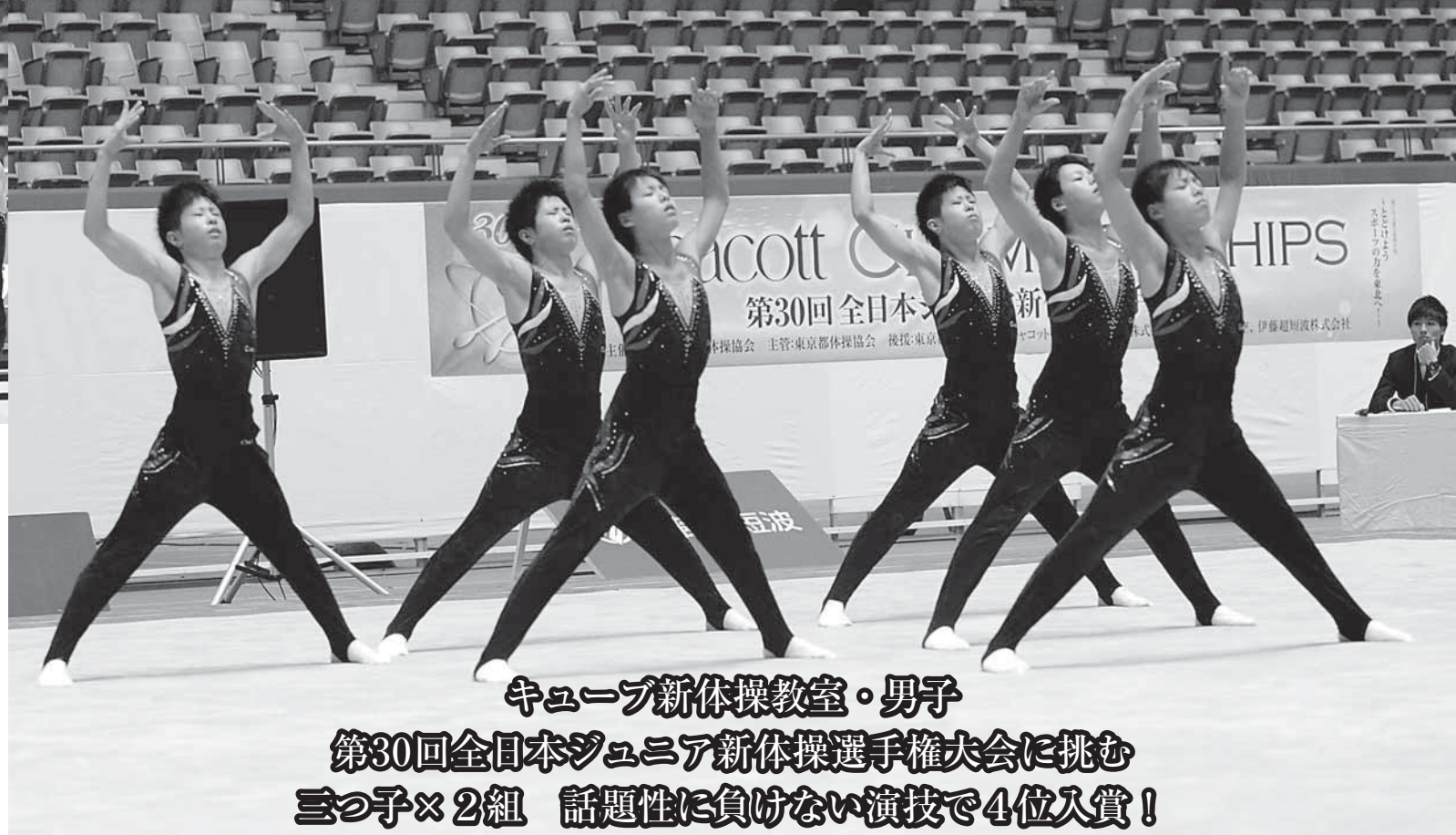


3



4

1_合わせにくい跳躍のタイミングも息を合わせてピッタリと決める選手たち
 2・3_ヒップホップの動きに徒手体操を織り交ぜ、ダンスとの融合を図った流れる演技。キューブらしい表現が多分に盛り込まれた「曲」「動き」「間」「雰囲気」すべてが駆使された演技に歓声が沸き上がった
 4_表彰台に上がることはできなかったが、女子新体操強化本部長の山崎浩子さんから4位入賞の賞状を受け取る高橋亮斗主将



キューブ新体操教室・男子 第30回全日本ジュニア新体操選手権大会に挑む 三つ子×2組 話題性に負けない演技で4位入賞!

頂点への挑戦

白石から全国に羽ばたく！
今年こそ、まだ見ぬ頂へ

10月12日から14日の3日間、「第30回全日本ジュニア新体操選手権大会」が国立代々木競技場第一体育館(東京都)で行われ、本市のキューブ新体操教室・男子が団体競技と個人競技で東北の代表として、全国の強豪に挑んだ。団体競技での出場は4回目。今年のメンバーは、高橋亮斗くん・優真くん・拓夢くん(ともに東中3年)の3兄弟と、佐藤綾人くん・颯人くん・嘉人くん(ともに東中2年)の3兄弟の6人をレギュラーに据えた。6人は9月に福島市で開催された東北大会で団体2位に輝き、全国大会の切符を手にした。高橋、佐藤両3兄弟ともに一卵性のため、顔や背格好もそっくり。昨年の大会は佐藤3兄弟と、高橋3兄弟のうち亮斗くんと拓夢くんの5人が出場し6位に入賞したことや、史上初となる三つ子×2組でつくる珍しいメンバー構成に、大会前から多くのメディアに取り上げられるなど、注目が集まった。

チームを指導するのは、平成14年から男女の監督となった柴田佐和子監督と本多和宏コーチ。本多コーチは平成23年、東中学校から七ヶ浜町立向洋中学校に異動となったが休日を削り、月に数回という限られた時間の中、選手たちの指導に当たってきた。

柴田監督がこの6人でチームを組むことを決めたのは昨年の秋。「背丈もほぼ一緒なので、同じ動きをする時にきれいに見えることや、三つ子同士で不思議に演技がそろうので、この6人でチームを組みました。練習を重ねることで表現力も高まりました」と柴田監督は話す。

小学1年から新体操を続けている佐藤3兄弟に対し、中学1年から始めた高橋3兄弟、佐藤3兄弟に追いつこうと、強化練習を重ねた。高橋亮斗主将は「佐藤3兄弟の動きに負けないように練習を重ねてきました。両兄弟とも息を合わせるのには得意なので、体を伸ばすところはしっかりと伸ばすなど、メリハリのある演技

具と身体が一体となった男性らしいダイナミックな演技で競う。団体競技と同様に伴奏曲ののって演技が行われ、男性らしい演技としなやかでリズムのある動きが個人競技の魅力。個人競技は4種類の手具演技を行い、それぞれの合計得点で競う。

注目の団体競技 史上初！ 三つ子×2組が全国に挑む

キューブ新体操教室は19団体内5番目の登場。6人がフロアの前に並ぶと、「キューブ新体操教室」とアナウンスが入る。一呼吸おいて高橋亮斗主将が真上に手を挙げ、それを合図に選手たちは大きく深呼吸をして、各ポジションについた。昨年は中東の民族舞踊を思わせる構成であったが、今年はヒップホップとジャズを組み合わせた構成に一新。ヒップホップの動きに男子新体操の基礎である徒手体操を織り交ぜ、ダンスとの融合を図った流れる演技を披露した。

「キューブ」らしい演技 惜しくも4位入賞!

6人は、「キューブ新体操教室」らしい表現が多分に盛り

をして、優勝を目指します」と闘志を燃やし大会に臨んだ。個人競技は佐藤綾人くん・颯人くん・嘉人くんの三つ子がそろって東北大会を勝ち抜き全国大会の切符を手にした。綾人くんは3年連続。颯人くんは2年連続の全日本ジュニア出場となった。昨年の大会は綾人くんが5位に入賞。嘉人くんは10位、颯人くんは13位と健闘し、全国のトップレベルと競い合えることを経験してきた3人の活躍に期待が高まった。大会は、12日に開会式と個人競技の前半2種目(スティック・リング)、13日に個人競技の後半2種目(ロープ・クラブ)、14日に団体競技が行われた。

全日本ジュニア新体操選手権 男子団体競技・個人競技

男子新体操は、6人で演技する団体競技と1人で演技する個人競技がある。演技内容は、男性らしいダイナミックな運動とタンブリング(バック転や宙返り)のスピードや高さのある力強い体操、あるいは、大道芸人

込まれた「曲」「動き」「間」「雰囲気」で、独特の世界を表現した。結果は19団体内4位。昨年の6位を上回ったが、序盤の見せ場となる、6人が片方のひざを曲げた状態で倒立し、バランスを保ったまま3カウントをキープする「鹿倒立」で、前に手を付いたり、沈んだりするミスがあったことが響いた。

柴田監督は、「今年の団体競技の演技は、競技における必要な要素にヒップジャズを取り入れた構成で勝負しました。男子新体操の魅力を、演じる選手も、それを見ている観客にも感じ取ってほしいと、考え抜いて作りしました。倒立のミス以外は大きなミスもなく、独創的な動きや協調性が豊かな新しい演技にチャレンジをしてくれました。来年の大会は高橋3兄弟がいないので、佐藤3兄弟のほか、高橋稜(東中2年)、南部武人(福岡小6年)、日下稜大(福岡小6年)、遠藤那央斗(白一小5年)、高橋快季(宮小5年)の中からメンバーを選び、経験や体格は違いますが、それぞれのメンバーの能力を考慮した上で、周囲を魅了できる演技をこれからは追求していきたいと思っています」と話した。